

# つやま 鉄道遺産 おでかけMAP

ノスタルジックな鉄道の旅。さあ、出発進行!!



「廢城令」で町の象徴・津山城を失った津山は16年後の1889(明治22)年、山陰山陽連絡鉄道運動の中心地になりました。それは岡山県南よりも早いもので、1898(明治31)年には県内二番目で陸蒸気(おかじょうき)がやってきました。吉井川の高瀬舟が西大寺に12時間で下り、60時間かけて上っていた時代、津山と岡山の往復には1週間を要しましたが、鉄道はそれを片道2時間半、日帰りにしたのです。汽笛一声で城下町の時間概念や価値観は大きく変わりました。大正時代になると作備線、因美線、姫津線の工事が始まり、津山駅は1936(昭和11)年、東西南北鉄道の十字路になりました。

津山の鉄道とその遺産には、人々の夢や歴史のドラマがたくさんあります。マップを片手に、津山の鉄道ロマン発見の旅に出かけませんか。

発行月 2022(令和4)年3月  
編集 津山市産業文化部観光振興課  
TEL:0868-32-2082  
発行 津山観光キャンペーン推進会議  
協力 西日本旅客鉄道株式会社 岡山支社

イラスト ドウノヨシノブ えかき・ものづくり作家  
京都精華大学マンガ学部非常勤講師  
監修 小西伸彦 産業遺産学会理事長  
新修津山市史近現代編執筆者  
就実大学人文科学部特任教授



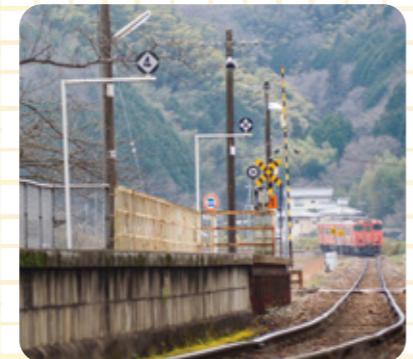
提供:江見写真館



## ①第2佐良川橋梁

津山線亀甲・佐良山間、皿川  
since 1898(明治31)年

津山線沿線には開業からの橋梁が数多く現存します。第2佐良川橋梁の橋桁もその一つ。腹板上下方向に渡された補剛材が天地で折れ曲がった「作三〇式」上路プレートガーダーです。1897(明治30)年に英國グラスゴーのクリーブランドブリッジ社が製造し、明治屋を創業した津山出身の磯野計(はかる)が設立した「磯野商会」が輸入しました。



## ②佐良山駅

津山線、津山市高尾  
since 1937(昭和12)年6月15日

1933(昭和8)年12月20日、まず高尾仮停車場として開業しました。当時の山陽新聞は「乗客には列車内で車掌が乗車券を発売する」と報じています。切符の販売はなかったのかもしれません。佐良山停車場に昇格したのは1937(昭和12)年6月15日。ホームの八重櫻が駅の歴史を静かに見守ってきました。



## ③第1河原開渠

津山線佐良山・津山口間  
since 1898(明治31)年

津山線沿線には煉瓦の積まれたプラットホームや橋梁、トンネルがあります。第1河原開渠の橋台はイギリス積み煉瓦、橋桁は英國ミドルズブラのドーマンロング社が製造したIビームで、桁は花崗岩の床石に置かれています。近くには明治の人々が手で削り、中國鐵道の社章「中」と彫った用地界標もあります。



## ④津山口駅

津山線、津山市津山口 since 1898(明治31)年12月21日

中国鉄道の終点・津山駅として開業。鍛(しころ)屋根の駅本屋、機関車庫、転車台、給炭・給水施設などが並んでいました。明治・大正時代には、ここから作東鉄道や陰陽中央鉄道、美作軽便鉄道、津山軽便鉄道、西美鉄道、播磨鉄道が計画されました。1923(大正12)年8月1日、鉄道省作備線の新駅に「津山」を譲って津山口駅になり、1944(昭和19)年6月1日の国有化で津山線の途中停車場になりました。



提供:江見写真館



提供:塙家



提供:江見写真館

## ⑤津山駅

津山市大谷  
since 1923(大正12)年8月21日

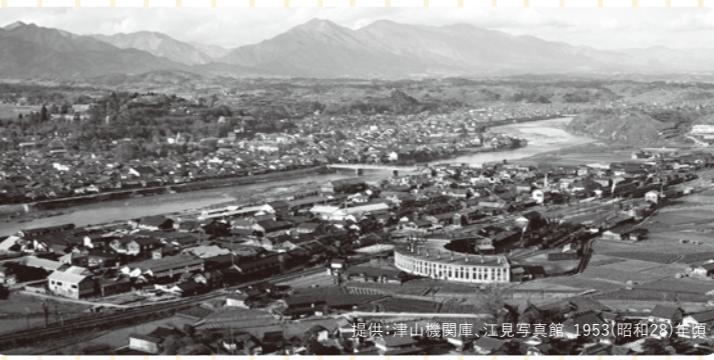
ドーマーウィンドーとハーフティンバーが特徴だった駅を、山陽新聞は「県下いざれの駅の追随をも許さない理想的最新式の大駅」と讃えました。「大正11年12月」付建物資産標の貼られた1番・2番は開業時のホームです。機関車庫をはじめとする蒸機機関車時代の交通システムが残る駅で、地下通路には空襲警報が鳴ると乗客を避難させた戦争の歴史があります。蒸機機関車C11はC53やD51、151系電車やO系新幹線などを設計した島秀雄の代表作。国鉄近代型タンク機関車の決定版です。80号機は日立製作所笠戸工場で1935(昭和10)年に製造され、175万キロ走った1975(昭和50)年に現役引退。1976(昭和51)年から津山市立南小学校、2017(平成29)年からは津山駅前で静態保存されています。



## ⑥津山まなびの鉄道館(旧津山扇形機関車庫と転車台)

津山市大谷 TEL:0868-35-3343 転車台1930(昭和5)年、扇形庫1936(昭和11)年 転車台18.3m  
休／毎週月曜日、祝日の場合はその翌日、12月29日～12月31日  
時間／9:00～16:00(入館は15:30まで)、入館料が必要

津山まなびの鉄道館はメイン施設の「旧津山扇形機関車庫」、津山の鉄道をジオラマで表現した「まちなみムーム」、鉄道の歴史や設備を学ぶことのできる「あゆみルーム」と「しきみルーム」からなります。日本初の扇形庫は1872(明治5)年に開業した新橋駅に建てられました。明治時代は矩形(くけい)庫が主流でしたが、鉄道省が発足した1920(大正9)年からは主要駅の機関車庫が扇形になりました。旧津山扇形機関庫は1932(昭和7)年に通達された「扇形機関庫設計標準準圖」の丙種で、古写真中央の矩形庫の手前、転車台左の空間に建てられます。鉄道記念物、近代化産業遺産、産業遺産学会推薦産業遺産、キハ33形1001号車は登録鉄道文化財。



提供:津山機関庫、江見写真館、1933(昭和8)年頃

